

河北新報

6月12日(木)
河北新報社

科学の魅力を身近に

仙台・荒町小 東北大が出前授業

東北大の研究者が子どもたちに科学の魅力を教える出前授業「楽しい理科のはなし」不思議の箱を開けよう」(東京エレクトロン宮城、河北新報社主催)が11日、仙台市若林区の荒町小(児童452人)であった。

東北大流体科学研究所の円山重直教授(熱工学)が「作って飛ばそうみんなのロケット」をテーマ

に、押し出す力を利用して物が動く仕組みなどを説明した。6年生96人は、大学院生の指導で、ペットボトルロケットを作製。校庭での発射実験では、水と空気の力で60センチ近く飛ぶロケットもあり、子どもたちは歓声を上げて軌道を見守った。今井あめりさん(11)は「思ったより飛んだ。工作は難しかった

けど、羽根の形などを考えるのは楽しかった」と話した。円山教授は「少ししか飛ばなかった人も落胆する必要はない。工夫を重ねることが大切」と実験の意義を語った。出前授業は地域貢献事業「東北未来プロジェクト」の一環。7月中旬まで、6人の研究者が仙台市と大和町の計6校で開



水しぶきを上げて飛ぶペットボトルロケット